TOPIC
（NPOビーンは自転車活用の5K＋1Sを提案します。）

NPO BEEN通信
特定非営利活動法人 自転車環境創造ネットワーク

2017 秋季号
2017.9.30

# NPOビーンは自転車活用の5K＋1Sを提案します。

## 自転車活用による5Kとは

NPOビーン通信夏季号に掲載された座談会で、倉嶋理事が1998年、米国ソルトレーク市を自転車で訪問し、市長に面談した際、自転車の効用について以下のような5つのメリットを提案したという話しをされていました。

座談会からその部分を抜き書きしますと、5つのメリットとは『「環境」「健康」「交通」「観光」そして最後に「活性化」です。私は、これを自転車活用の5Kと呼んでいます』とあります。

倉嶋理事が提案された5Kは、本年5月1日に施行された、自転車活用推進法が理念とする「環境」「健康」「災害」をさらに生活者、地域社会の目線で踏み込んで捉えているところに、大きな意義があります。

## コンパクトシティ構想、交通体系の見直しに呼応

国は平成25年、住民が暮らしやすいコンパクトシティ構想をかかげ、あわせて自動車依存を減らして公共交通の利用を促進する交通体系の見直しに取り組んでいます。こうした国の方針を受け、LRTなどの路面電車の新設置を計画する宇都宮市、京都市、さらに自動車依存を減らして、中心市街地の移動に公共交通、自転車の活用の構想を提案している松本市など、地方自治体での動きも始まっています。

倉嶋理事が提案する5Kは、環境、健康はいうまでもなく交通体系の見直しにも効果があり、観光地での移動で自転車が利用されることで、自家用車よりゆっくりとしてまち巡りができるようになります。そしてこれらの4つのメリットが、まとまると5番目のK、まちの活性化につながり、シャッタータウンをよみがえらせ、中心市街地の賑わいを取り戻すことにもつながります。

## そして、災害時の機動性で、1Sをプラスします。

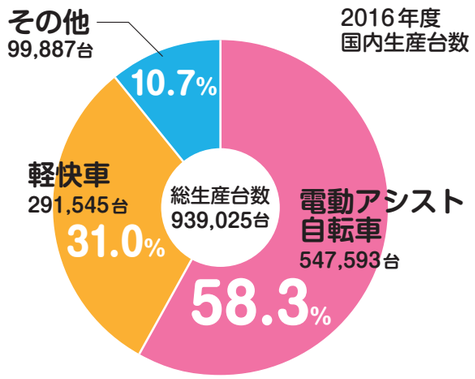
自転車は誰でも利用できる便利で気楽な乗り物として、生活者の足となってきました。社会が急速に変化するなかで、環境、健康、交通、観光に役立ち、そしてまちまでを元気に変えていく力が、改めて評価されようとしています。たかが自転車、されど自転車、一台一台の力は小さくとも、利用者が多くなればなるほど、地域社会に与えるそのインパクトは、想像以上に大きくなります。

最後に、自転車活用推進法の「災害」の「S」をプラスした5K+1Sを、NPOビーンが掲げる自転車環境創造の活動のコンセプトとして位置づけ、自転車利用者を始め、自治体や地域社会に周知していくことを提案します。

NPOビーン・アドバイザリースタッフ
末吉正三

## 売り上げ快調、快走、電動アシスト自転車。これからの課題は?

2009年に、電動アシスト自転車の国内出荷台数が初めて30万台を突破し、自動二輪の29万台を逆転して以来、その差は年々広がり、2016年の国内出荷台数は54万台を超えています。価格は依然として10万円台と高額ですが、子乗せ用としての需要を中心に、高級ママチャリとしても若い女性層からの支持が増えています。
09年に需要が伸びた理由として、道路交通法の改正によって、それまで1:1だったアシスト比率が1:2になり、いっそう走りやすくなったことが上げられています。自転車業界では、子乗せ用の需要は頭打ちとなると予測しており、今後、新しい需要の取り込みには、シニア、若者層に焦点をあわせた、よりおしゃれ感のあるシティサイクルタイプや課題である価格を抑えた製品開発への取り組が欠かせないと考えているようです。
一方で、ペダルを軽く踏むだけでスピードが出せるために、今後、電動アシスト自転車が増えることは事故増加も懸念されます。
利用者の習熟とルールの遵守、マナーの向上が重要な課題といえるのではないでしょうか。

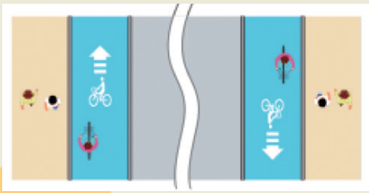


出所：経済産業省生産動態統計 / 財務省貿易統計

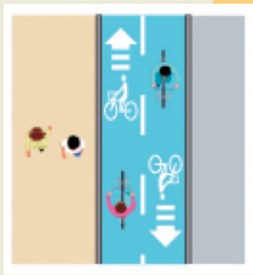
## 自転車道についてガイドラインが改訂されました。

自転車道とは、車道、歩道から独立した自転車が専用に走る道路と定義づけられています。これ以外に、自転車レーンという表記もありますが、こちらは、車道との区切りがなく路面に自転車と矢羽根のナビマークを印字した自転車通行用のレーンとなります。
自転車道の建設については、当初発表されたガイドラインでは道路幅員2メートル以上であれば、双方向通行も可であるとされていました。

### ガイドラインの見直し



**一方通行**　自転車道の原則相互通行をやめ、すでに双方向通行の道路は一方通行にする。



**双方向通行**

今後新設する場合は、一方通行を原則とし、双方向にする場合には、幅員２メートル以上で、自転車道をセンターラインで二分する。

しかし、これでは、自転車同士がすれちがう時に接触などの事故発生の原因になるだけでなく、一般の自動車道路との交差点での出会い頭事故などが懸念され、自転車走行ルールの専門家からも改訂を要請する意見が再三にわたって提出されていました。

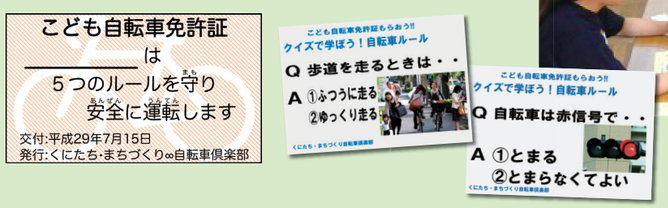
昨年公募されたパブリックコメントでも、相互通行が危険であるという指摘が数多く寄せられました。こうした意見を受けて、国交省では、28年7月の改訂版で、上記のようにガイドラインの見直しを通達しました。
これらの改訂の背景には、今後、自転車ネットワークによって、自治体相互の境界を越えて自転車道がつながることが想定され、その場合、一方の自治体が双方向通行で、もう一方が一方通行であると、利用者が混乱し、事故発生につながりかねないという問題もあります。

ガイドライン改訂前に建設された自転車道。利用する市民からはすれ違う時に怖いという意見が寄せられている。

## 小さな試み、大きな一歩。クイズで学ぶ自転車のルール

### ルールを学ぶと自転車はもっと楽しい乗り物になる

東京都のほぼ中央部に位置する国立市。文教都市として名高いこのまちでは、自転車を活用したまちづくりを進める市民ボランティアグループが活動していします。その活動の1つである親子自転車教室については、平成28年のビーン通信秋季号の特集で紹介しました。
今回は、夏休みに入る直前の7月15日（土）、地元の小学生を対象に、自転車のルールをクイズで学ぶイベントを実施しました。
幼稚園の年中クラスでも自由に乗りこなすなど、自転車の利用年齢が年々低くなっています。しかし子どもにとって自転車は、どこまでも遊具ですから、ルールがなかなか身につきません。その一方で、保護者自身も同様にルールを学ぶ機会がなかったこともあって、自分の子どもに正しい指導をすることができないのが現状です。
くにたちまちづくり∞自転車倶楽部は、「ルールを学ぶと自転車はもっと楽しい乗り物になる」をモットーに活動をしています。だから、クイズ内容も「自転車は車、だから道路の左側通行」「歩行者優先」「赤信号では必ず止まる」「交差点では一時停止」「ヘルメットかぶろう」などととってもシンプル。
イベントでは、元気な小学生、幼稚園児が親子連れでつぎつぎにクイズに挑戦しました。パネルを見ながら、5つのクイズに答えていきます。
「自転車は道路のどこを走りますか?」というクイズに、「ハイ! 道路の真ん中を走ります」などと元気に答える子もいて、会場は大盛況。
イベントは一日だけでしたが、クイズに挑戦した児童は90名を超えました。
5つのクイズで、ルールを学んだ子どもたちへ、小さな試みが大きな一歩になることを願って、「こども自転車免許証」を発行しました。



子どもたちもお母さんもみんな真剣です

# 自転車でアメリカ西部を走る ⑥

出水　豊

「砂漠には毒蜘蛛やクーガ(アメリカライオン)がいるぞ」
「ブッシュ(灌木)にひっかかれて手も足も傷だらけだ」
──サンフランシスコ市警に自転車で出発する挨拶に行った私を囲んで制服の警官たちがからかう。「ネバダは核廃棄物の処理場があるおかげで生活している。あんな所で地球の環境を守ろうなんて言ったら遠い所から弾が飛んで來る」と言ったのもこの連中だ。
確かに私がクロスバイクで走ろうとしているソルトレーク・シティまでのアメリカ西部2,400kmのうち三分の二はネバダ、ユタの砂漠地帯だ。
でも長距離トラックも走る一本道は舗装されているというから、両側の砂漠に入らなければ大丈夫。
と思いながらもフリスコの市庁舎前を出発した時は長袖シャツに長ズボン、その上に国際環境使節団の制服であるジャンパーまで着ていた。6月13日の西海岸はメチャクチャ暑かった。小1時間走ってゴールデン・ゲート・ブリッジを渡る時にはすべて脱ぎ捨ててTシャツに短パン姿だ。途中までついてきたテレビや新聞カメラマンがいなくなったので靴も脱いで、日本でサイクリングの時に常用していた雪駄にはきかえた。
このスタイルは最後まで変わらなかった。コヨーテ(草原オオカミ)の親子に遭遇したり、毒蜘蛛の死骸を発見したりはしたが、幸い被害には遭わなかった。日焼けと熱中症は怖かったが『そんなこと心配してたら走れるもんかい』の強気で押し通した。水だけはガブガブ飲んだ。すぐに汗になって噴き出る。
ラジオが伝える気温が華氏だったこともよかった。「とても暑い。111度」などと言われても実感がない。日本風に「摂氏44度」と言われたら、それだけでへたばっていただろうけど。
もうひとつは私がモンゴルによく旅をし、行くたびにゴビ砂漠へ足を伸ばしていたのもよかった。日中の暑さとは裏腹に、日が落ちると放射冷却作用で砂漠はグンと冷え込むことを体験していた。寒暖の差が激しいと疲労が倍加する。夕方になると私は長袖、長ズボンに着替えた。そして涼しくなると野獣が出てくるので、事前に調べて計画を立てておいたモーテルまで一目散に走る。
フロントでクレジットカードを渡して部屋を確保するなり、どのモーテルにも備えてある製氷機からガラガラと大きな氷をジョッキー杯に入れ、そこにビールのバドワイザーをドボドボドボッ!　仰向いてキューッとのどに流し込んだらまさに天国。まだ生きてるぞーっ!!!　(つづく)

「今日も暑い！」ネバタ砂漠に日陰は無い

事務局便り

## 本部事務所移転のお知らせ

この度、本部事務所を９月15日に東京都港区芝大門、増上寺の近くに移転をいたしました。本部事務所は、業務の効率化を考え総務部を配置し管理部に付きましては、各駐輪場との連絡等をより強化に資するべき従来通り白金高輪バイクイン内管理事務所に配置いたします。
これを機に事務局一同気持ちを新たにし、更なる発展を目指して努力してまいります。
又、今年度継続的に実施している「ルール・マナー」と「放置防止」の啓発活動を杉並区東高円寺の「ニコニコ商店街」と「銀座商店会」において10月２日に実施いたしました。
「自転車活用推進法」が施行され、自転車を取り巻く環境が変わってきました。
ビーンとしても、自転車活用による 5K+1S を推進してまいります。

GSハイム芝大門

新オフィス内

■発行者：特定非営利活動法人　自転車環境創造ネットワーク（略称：NPO ビーン）
■住　所：〒105-0012　東京都港区芝大門２丁目1-18　GS ハイム芝大門 208 号
事務局：TEL.03-6435-6160　FAX.03-6435-6366　Homepage　http://bicycle-been.weebly.com